

(平成 22 年 4 月提出・最終案)

理学療法教育ガイドライン（1 版）

序文

理学療法教育ガイドライン（1版）策定の経緯

現在の理学療法士教育は、平成 11 年に改正された理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に沿って行われています。現行の指定規則は大幅に大綱化されたこともあり、改正された当時から具体的な教育内容に関する指針を求める意見が多く聞かれました。また、その当時から教育課程が大学、短大、専門学校（3年制・4年制）と多岐にわたっていたことから、養成施設によって教育内容にかなり偏りがあることも指摘されていました。

これまで、わが国の理学療法教育には依拠すべき教育ガイドラインがなく、厚生労働省により国家試験の出題内容を提示した「国家試験出題基準」があるのみでした。このため、養成施設における具体的な教育目標の設定やレベルの規定も必ずしも明確とはいえませんでした。したがって、養成施設における教育の質をより向上し、一定水準の質を維持するとともに、教育内容を再編成して多様化をはかる必要があります。しかしながら、膨大な学習内容のすべてについて従来の教育手法を用いて効率よく履修させることはもはや困難とされます。事実、教育内容は実質的に各養成施設や科目担当教員の裁量に委ねられており、内容の偏りや不足を来すことは避け難いと思われまます。こうした問題を是正するためには、理学療法教育の内容について精選された基本的かつ標準的な内容を重点的に履修させるカリキュラムを確立する必要があります。

こうした状況を受けて、平成 16 年より協会内では教育部を中心として、教育ガイドライン作成に向けた取り組みが始まりました。平成 18 年には専門領域のみの教育ガイドライン（試案）が作成されました。その後、協会内に正式に「教育ガイドライン作成委員会」が発足し、この試案をもとに、平成 21 年になって、専門基礎領域も含めた教育ガイドライン（第 0 版）が作成され、WEB 上に公開されることとなりました。そして、今回、さらにこの教育ガイドライン（第 0 版）をもとに、新たな委員会の下で教育ガイドラインが策定され、教育ガイドライン（第 1 版）が発行されるに至りました。この間、多くの皆様にご協力を賜りましたことを改めてここに厚く御礼申し上げます。

なお、教育ガイドラインは各教育機関の独自のカリキュラムや教育方法を拘束するものではなく、より効率よく教育を行うためのものであることを改めて強調しておきたいと思ひます。教育ガイドライン（第 1 版）では具体的な教育内容を包括的に提示し、利用しやすいよう工夫してあり、多くの皆様に広く活用されることを望んでおります。このガイドラインに基づいて、各養成施設が独自の教育理念や特色に合わせたカリキュラムを設定していただければ幸いです。最後に、理学療法教育を取り巻く情勢に対応して、ガイドラインの内容について、今後も定期的な見直しや改訂の作業が必要となることはいまでもありません。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 22 年 4 月

教育ガイドライン(1版)検討部会

目 次

(頁)

序文	
理学療法教育ガイドライン（1版）策定の経緯	
本ガイドラインにおける主な提言の要旨	1
第1部 総論	4
I. 卒前教育の枠組み	4
1. 卒前教育の到達目標	4
2. 養成期間・養成形態に関する考え方	5
3. 教員が備えるべき条件	6
II. 臨床実習教育	7
1. 臨床実習教育の到達目標	7
2. 臨床実習の方法	8
3. 臨床実習のモデル	9
4. 臨床実習指導者が備えるべき条件	9
III. 卒前（学内）教育における理学療法教授法	10
1. 理学療法教育とその過程	10
2. 理学療法教育の目標とその設定	11
3. 教育課程とコア・カリキュラムの活用	12
4. 理学療法固有領域に適した教授方法	13
5. 理学療法能力を評価する方法（教育評価）	17
6. 卒前（学内）教育の展望	
～標準的学内教育の構築を目指して～	20
IV. 4年生大学カリキュラムへの提言	21
V. 大学院教育カリキュラムへの提言	24
第2部 理学療法卒前教育モデル・コア・カリキュラム	26
I. 卒前教育モデル・コア・カリキュラム編成方針	26
1. 指定する単位数	26
2. 指定する授業形態	26
3. 単位制の考え方	27
4. 理学療法モデル・コア・カリキュラム科目一覧	28
II. 理学療法モデル・コア・カリキュラム	29
<専門基礎領域>	
骨関節系の構造と機能	30
神経系の構造と機能	31

内臓諸器官系の構造と機能	32
運動学	33
人間発達学	34
医学概論	35
臨床心理学	36
精神障害と臨床医学	37
骨関節障害と臨床医学	38
神経・筋系の障害と臨床医学	39
小児発達障害と臨床医学	40
内部障害と臨床医学	41
老年期障害と臨床医学	42
保健医療福祉論	43
リハビリテーション概論	44
<専門領域>	
基礎理学療法学	45
理学療法基礎評価学	47
理学療法基礎治療学	48
骨関節障害理学療法学	49
神経障害理学療法学	52
内部障害理学療法学	55
地域理学療法学	59
巻末資料	60~81